



漆器のボデイを大解剖

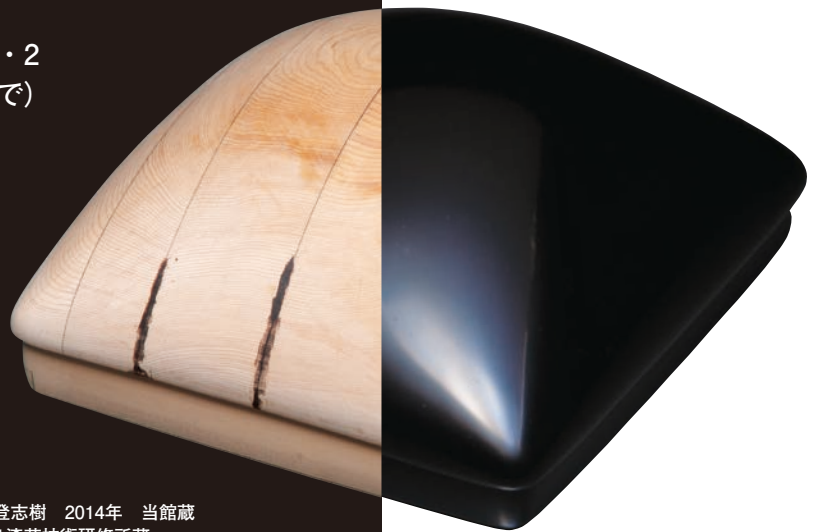
漆芸解体新書

何が違うの？

漆器のボデイ

2020
9/19 (土)
→ 11/16 (月)
※会期中無休

主催・会場 石川県輪島漆芸美術館 展示室1・2
開館時間 9時～17時 (入館は16時30分まで)
入館料 一般 420円
 高大学生 210円
 小中学生 100円
同時開催 展示室3「輪島塗の歴史と文化」
 (展示室4は工事のため閉室中)
後援 輪島市
 北國新聞社



作品左上から

《へぎ目曲輪造黒漆塗茶器・木地見本》木地：山下博之、髹漆：物田登志樹 2014年 当館蔵
《根来椀 (素地)》(優品模造) 木地：辻義男 1978年 石川県立輪島漆芸技術研修所蔵
《根来椀》(優品模造) 木地：辻義男、髹漆：中浜儀太郎 1978年 石川県立輪島漆芸技術研修所蔵
《舟橋時絵硯箱 (素地)》(優品模造) 木地：高柳修一・塩多慶四郎 1984年 石川県立輪島漆芸技術研修所蔵
《舟橋時絵硯箱》(優品模造) 木地：高柳修一、髹漆：塩多慶四郎 1985年 石川県立輪島漆芸技術研修所蔵

〒928-0063 石川県輪島市水守町四十苺11番地
TEL 0768-22-9788 FAX 0768-22-9789
<https://www.city.wajima.ishikawa.jp/art/>



WAJIMA MUSEUM OF URUSHI ART
石川県輪島漆芸美術館

漆芸解体新書

漆器のボディを大解剖

2020年 9/19(土) ↓ 11/16(月)

※会期中無休

漆器や漆芸作品は、素地（ボディ／胎）とよばれる原型に漆を塗り重ねて作られています。そのため、完成した漆器からはもとの素材が分かりにくいかもしれません。しかし、漆器の土台となる素地は目的や形態によって使い分けられ、それぞれに合った加工方法が生み出されています。

本展覧会では、挽物・指物・刮物・曲輪造を始め、乾漆・漆皮・紙胎・金胎・藍胎といった様々なボディとその成形方法に着目し、漆器を言わば「解体」して、漆の下に隠れた素材と技をご紹介します。

曲輪造



1

金胎



2

藍胎



3

漆皮



4

刮物



5

乾漆



6

1 赤地友哉《銀平脱漆胡瓶（縹地）》（優品模造）1978年／2 理化学研究所静岡工場《金胎梅文水盤》19世紀後半～20世紀前半／3 小森邦衛《網代重箱》1990年4 増村紀一郎《漆皮金彩提盤》1990年第37回日本伝統工芸展／5 《足付鉢》15世紀／6 築地久弥《乾漆溜塗合子「豊蕾」》1998年第15回日本伝統漆芸展
1は石川県立輪島漆芸技術研修所蔵、2～6は当館蔵



WAJIMA MUSEUM OF URUSHI ART 石川県輪島漆芸美術館

〒928-0063 石川県輪島市水守町四十剱11番地
TEL 0768-22-9788 FAX 0768-22-9789
URL <https://www.city.wajima.ishikawa.jp/art/>



■交通案内 飛行機：羽田空港→約60分→のと里山空港→車→約20分→漆芸美術館
車：金沢市内→のと里山海道利用→約100分→漆芸美術館
（自家用車・大型バス駐車場有（無料））
バス：金沢駅→北鉄奥能登バス輪島特急→約120分→道の駅・輪島ふらっと訪夢
乗換え→のらんげバス 海コース→約10分→「漆芸美術館」下車
徒歩：道の駅・輪島ふらっと訪夢「輪島駅前」→約15分→漆芸美術館

次回展覧会「国際漆展・石川2020 輪島展」
11月21日（土）～2021年1月17日（日）
前後期展示替休館 12月17日（木）・18日（金）
年末休館 12月29日（火）～31日（木）